

平成 29 年度 事後評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	堺泉北港 汐見沖地区多目的国際ターミナル整備事業
担当部署	都市整備部 港湾局 計画調整課 事業グループ
事業箇所	泉大津市 夕風町地先他
事業目的及び事業内容	<p>【事業目的】 堺泉北港の主要取扱貨物である中古自動車の輸出は、西日本有数の取扱量を誇っている。堺泉北港の岸壁は、中古自動車、鉄鋼、合板、鋳産品等の貨物を同一岸壁にて取扱っており、岸壁背後のスペースも狭く異なる貨物が輻輳し非効率な荷役形態となっている。これを解消するため、中古自動車を主に取り扱う岸壁を汐見沖地区に新規整備することで、取扱貨物別に岸壁を再編し、中古自動車輸出の拠点港としての機能強化並びに物流の効率化を図る。</p> <p>【事業内容】 ○多目的国際ターミナル整備事業 岸壁（水深 11m、延長 260m）、 臨港道路（延長 1,400m、4 車線）、泊地浚渫（水深 11m、31,000 m³）</p>
関連事業とその現状	大阪湾圏域広域処理場整備事業（泉大津沖埋立処分場）（平成 35 年度に竣功予定）
社会経済情勢の変化	・最終評価時点と完成時点とで、本事業をとりまく社会経済情勢に大きな変化は見られない。
事業実施による自然環境の変化	・自然環境への影響を極力少なくするため、埋立方式ではなく既存護岸の前面に棧橋を設置することにより、海域への影響を少なくした。 ・施工時には汚濁拡散防止膜を設置し、周辺の自然環境への影響を抑えて施工を行った。
最終評価時の意見具申（付帯意見）と府の対応	<p>【最終評価時の意見】 ・ 施設の必要性やその規模、社会的便益の算出方法については、事前評価時と同様に、多くの意見があったことを付しておきたい。 →最終評価時の港全体の取扱貨物量は約 10 万台（輸出のみ）と見込み。 供用開始年である平成 25 年には港全体で 11 万 2 千台（輸出のみ）を達成。</p>

2 事業効果の分析等

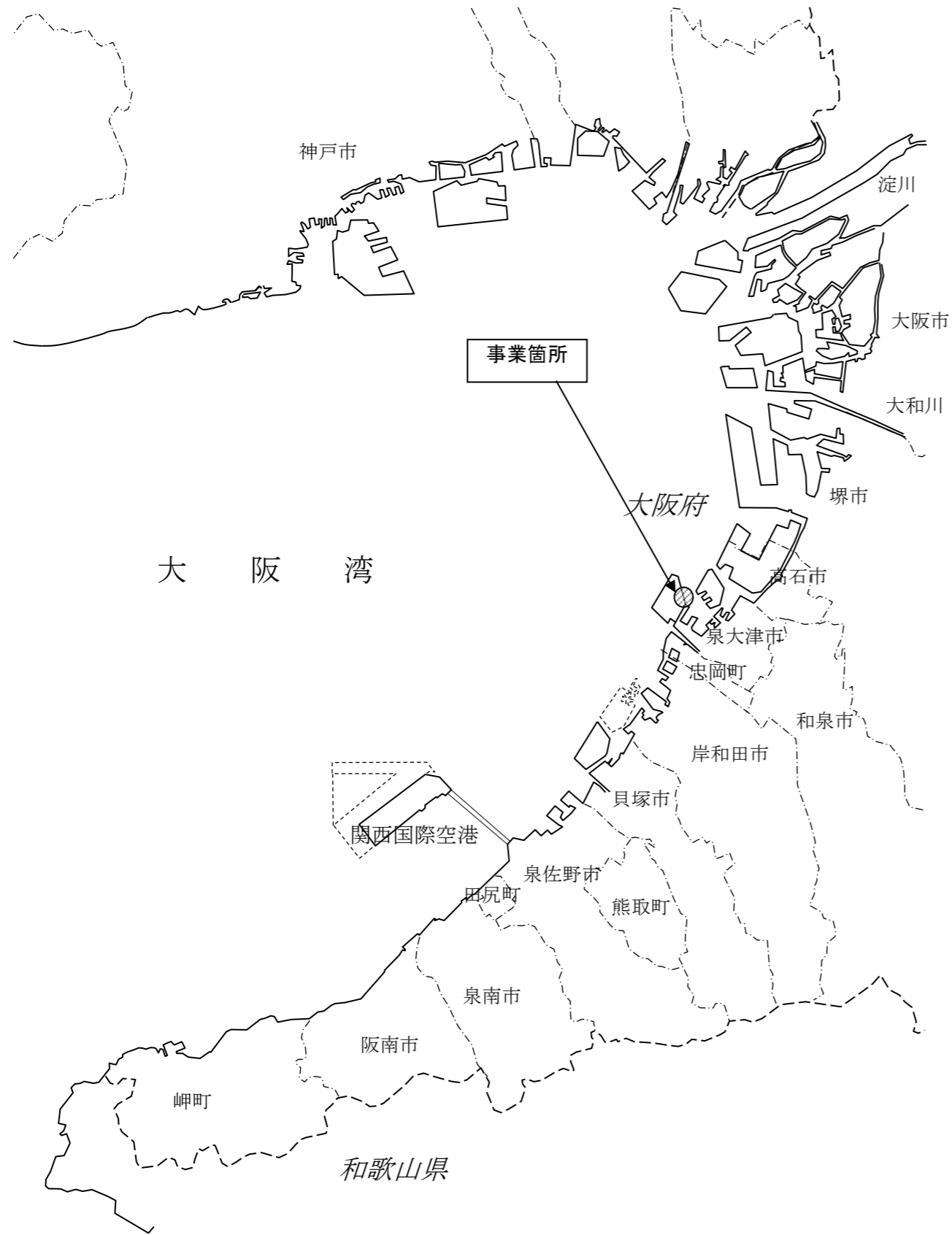
	最終評価時点 H23	事後評価時点 H29	変動要因の分析
事業費	19.8 億円	18.4 億円	
経過 ①事業期間 ②採択年度 ③着工年度 ④完成年度	①6 年 ②平成 19 年度 ③平成 19 年度 ④平成 24 年度	①6 年 ②平成 19 年度 ③平成 19 年度 ④平成 24 年度	予定通り完成
定量的効果 (費用便益分析等)	<p>【効果項目】 陸上輸送費用の削減便益</p> <p>【分析結果】 ・ B/C=4.08 ・ B=68.3 億円 ・ C=16.7 億円</p>	<p>【効果項目】 陸上輸送費用の削減便益</p> <p>【分析結果】 ・ B/C=2.03 ・ B=58.9 億円 ・ C=29.0 億円</p>	・費用対効果の算定に基づき、コストが増加したため。
事業効果の定性的分析 (安心・安全、活力、快適性等の有効性)	<p>【効果項目】 ・ 岸壁整備することにより、取扱貨物別に岸壁を再編することができ、非効率な物流の改善が図られる。 ・ また、分散されている中古自動車ヤードの集約が可能となり、輸送の効率化が図られる。</p>	<p>【効果項目】 ・ 同左</p>	
その他特記事項	なし		

3 評価結果と今後の同種事業に対する改善措置等

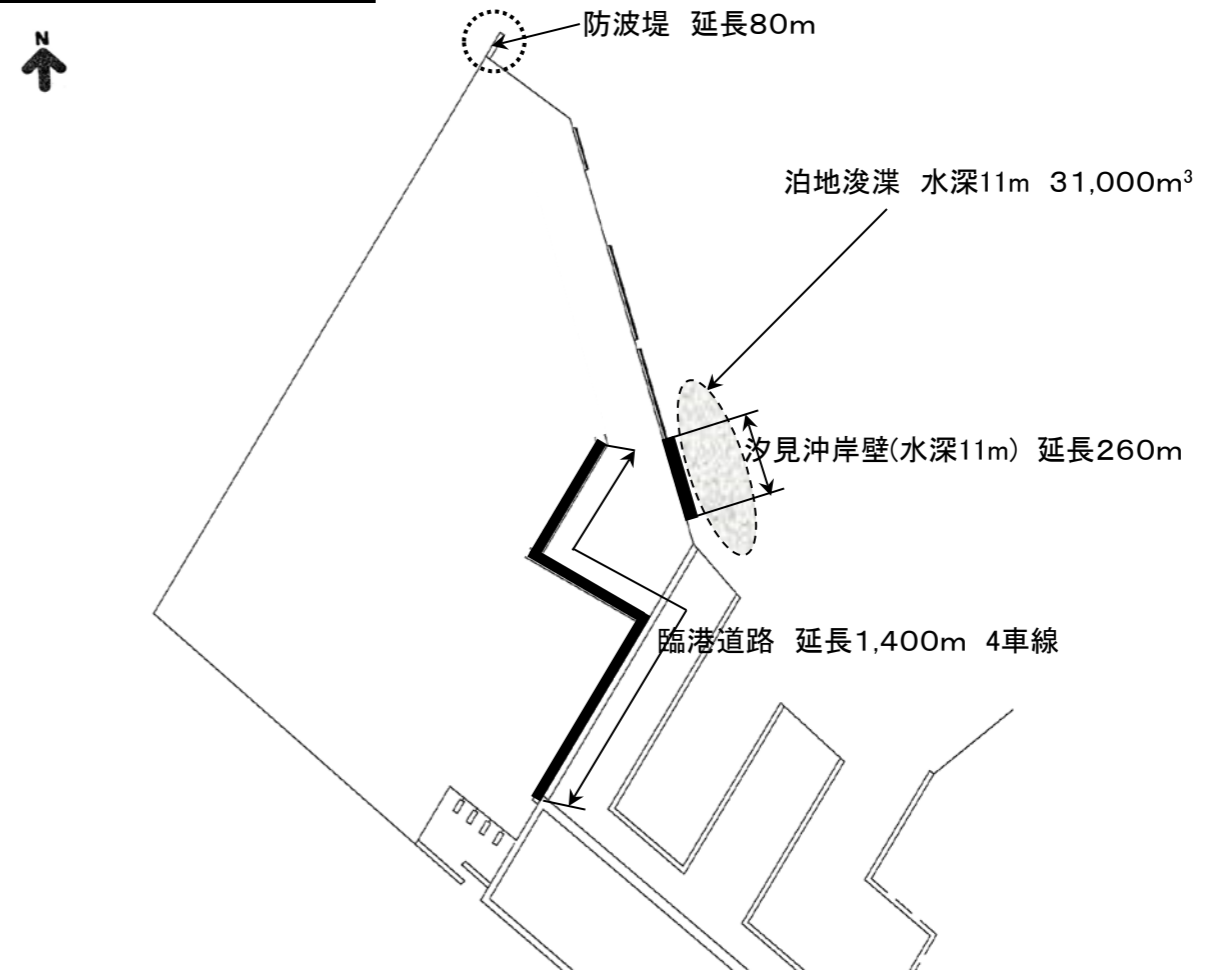
評価結果 (事業効果の発現 状況等)	<ul style="list-style-type: none">・事業期間や事業費等について大きな変更はなく、ほぼ当初の事業計画どおりに完成。・岸壁が整備されたことにより輸送の効率化が図られた。
今後の同種事業に 対する改善措置等	<ul style="list-style-type: none">・岸壁の整備に合わせた保管ヤードの確保が必要。

堺泉北港汐見沖地区多目的国際ターミナル整備事業 概要図

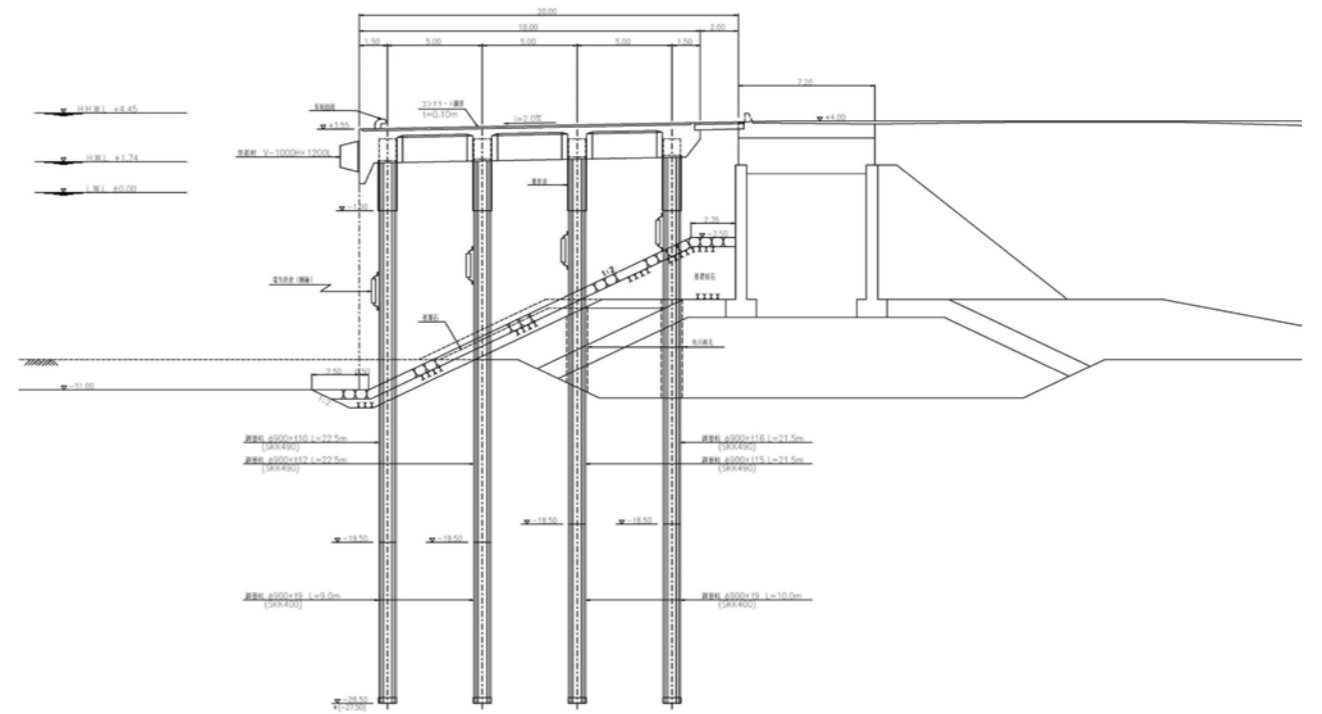
事業箇所図



平面図



標準断面図



* ()内の記入は標準は Bor.No.1~2区間の値を示す。